

真鶴漁協ヒアリング

日時 平成30年11月16日(金)

午後1時00分～2時00分

場所 真鶴漁協 2階

現状・課題、今後利用していくうえでこうなったらいいと思うこと

- ・真鶴港は定置網がメインなので、船上花火を定期的にとると、魚が逃げってしまう。
- ・漁業体験については現在やっているが、新規は受け入れていない。問い合わせはあるが、人手が足りず、断っている。漁協の職員数人でやっているため、平日にやれることしかやっていない。(真鶴中学校、横浜の中学校など、既存で何年も来ているところのみの受け入れ。後は、観光協会に断ってもらっている。)
- ・漁協体験は受け入れ態勢を整えば対応可能。現在は漁協の職員・従業員数人で業務中に対応している。
- ・漁火で幻想的な雰囲気と書いてあるが、光などは漁獲に影響するので、漁師が神経質になる。
- ・魚座の前で行っている朝獲れ直売は人気だが、今の規模だからできている。500人ぐらい来ってしまったら、売る魚が無い。
- ・朝獲れ販売は50～100人規模が限界。時間は朝4時間ぐらいやっていて、その後は、事務仕事をやっている。本業の給料をもらいながら、人件費タダでやっている。お客を呼ぶとなると、漁の無い時でも魚を揃えて、店の売り上げを上げなくてはならない。そうすると、真鶴以外のよその魚を引っ張ってこなくてはならない。そのため、この規模が限界。お客さん呼び寄せるのでは無く、お客さん自身が好きで買いに来ている人のみ。真鶴の魚のPRだと思ってやっているのだから、このスタイルは崩せない。
- ・魚座も民間に自由に貸せたら良い。
- ・魚座はランドマークだが、造りが特殊。
- ・漁協は釣りを禁止していない。釣り人は結構来る。
- ・港湾内の明確な決まりがない。ジェットスキーやカヌーの出入りが多い。危険が伴う場面がある。ライトも付けずに夜に来る。
- ・大型バスが来ても、Uターンする場所がない。
- ・うに清の手前の広場より先は、町が用意した電気バス等、指定された車両しか入れないようにする。半島に魅力あるものがあれば、お金が落ちるのでは。魚つき保安林も守れる。
- ・電気自動車しか走れない半島にする。
- ・亀ヶ崎、お林展望公園、三ツ石の辺りを魅力あるものにできればよい。
- ・電気自動車会社を呼ぶ。
- ・バイクのツーリンググループの居場所の確保。
- ・漁協としてほしいものは、集会所がほしい。市場を広くしたい。
- ・漁協のいま空いている駐車場を買い取ってもらって、荷捌き場を広げて、飲食店をつくってほしい。
- ・真鶴港にもCAS冷凍の施設があれば、鮮度がよく保てる。
- ・空家を新規の漁師に貸し出したい。(漁師宿舎)
- ・防波堤は県の管理なので、活用は難しい。